

平成 26 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (太平洋) について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を平成11年から行っており、平成26年は7月24日、8月19日、9月18日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いて三沢市沖8点で行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0~40尾/1,000m²の範囲にありました(表1)。採集したヒラメの全長組成は7月24日に水深5、7mで30mm台、8月19日に水深5mで60~70mm台、7mで40及び60mm台、9月18日に水深5mで90及び110mm台、水深7mで80~90mm台が主体でした(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成26年は31(表1)であり、平成11年以降の平均49よりやや低い水準になりました(図3)。これまでの調査結果を見ると、太平洋南部では着底指数が高かった年の翌年に1歳魚の漁獲尾数が多くなる傾向があることから、1年後に漁獲対象となる本年生まれの資源はやや低い水準になると考えられます。

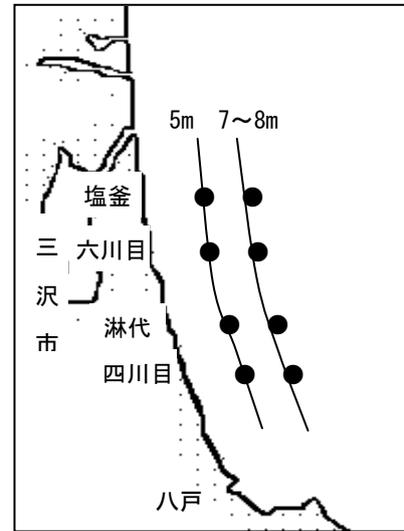


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

調査月日/調査点	水深 5m				水深 7-8m				(尾/1,000m ²)	
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	5m 平均	7-8m 平均
	2014. 7. 24	11	19	5	0	8	7	6	0	9
2014. 8. 19	25	40	—	9	36	—	28	29	24	31
2014. 9. 18	12	15	4	11	25	9	20	21	10	18

* 桁網効率を0.28として算出した。

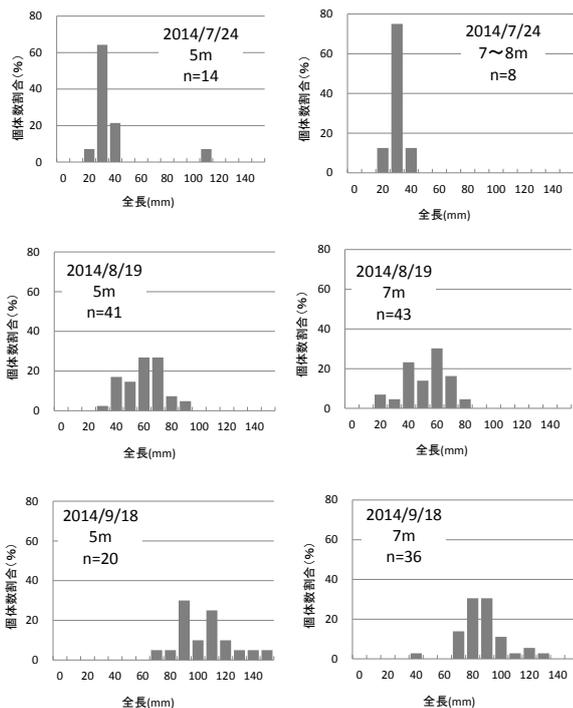


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

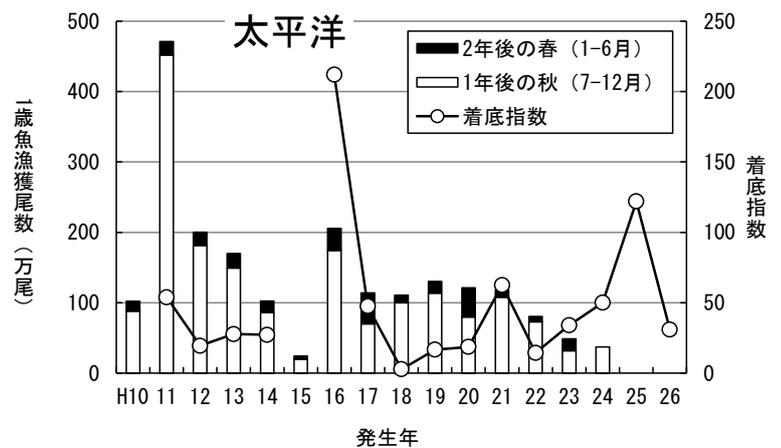


図3 太平洋のヒラメ着底指数と1歳魚漁獲尾数の推移